

## 令和6 多摩市文化芸術振興計画有識者会議 第2回 要点録

開催日時・場所	令和6年4月5日(金) 午前9:30～午前11:15 多摩市役所第二庁舎会議室	
参加委員	参加委員 9名 伊藤委員、青木委員、岩佐委員、沖田委員、柏井委員、高橋委員、二羽委員、春田委員、米屋委員	
出席職員	くらしと文化部長、教育部長、文化・生涯学習推進課長、事務局2名	
主な内容	次第1	今回の検討範囲と、前回の意見の確認
	次第2	調査の全体像と概要の共有
	次第3	アンケート案の協議
	次第4	計画骨子案の協議
	次第5	既存事業、文化資源に関する調査状況の報告
	次第6	その他
議題	主な意見（●事務局、◎会長、○副会長、◇委員）	
次第1 今回の検討範囲と、 前回の意見の確認	<p>●事務局：前回の要点録及び今回の検討範囲について説明を行い、確認及び決定された。</p>	
次第2 調査の全体像と概要 の共有	<p>●事務局：調査の全体像と概要について説明を行い、確認された。</p> <p>◎会長：アンケート、団体等ヒアリングと若者アンケートを今回の計画で重点を置きたい対象に実施することとし、ここでは、アンケートの考え方について検討したい。意見や何か質問等はあるか。</p> <p>◇委員：中学生がアンケートの対象にならない理由は何か。 文化芸術による刺激を受けるのは中学生の頃からではないかと思うので、中学生も対象になるとよい。</p> <p>◇委員：事務局の説明では若者アンケートの対象は高校や大学等とあったが、日本語学校等も含めてはどうか。</p> <p>●事務局：日本語学校等も含めることを検討したい。今回はアンケート（15歳以上対象）は現状把握を目的とし、中学生への質問を加えると目的が混在し複雑化するため、切り分けることにした。若者アンケートの中でどこまで対応できるか検討したい。</p> <p>◇委員：今回は子育て世代の意見聴取が主であるが、多摩市は就業者や高齢者も多く、お金にも時間にもどちらかというと余裕がある。芸術活動を支える側になるので、そのような方々の意見も可能な限り吸い上げられると良い。</p> <p>●事務局：アンケートの設計上は全世代が回答可能な内容としている。意見を把握したい層には案内送付を行い、Webでの公開、公共施設等にも置いて、</p>	

	<p>目に留まった方々が回答できる方法も併用し、広く意見を拾えるようにしたい。高齢者については、既存の調査結果を活用したい。</p> <p>◇委員：地元 40 社超で組成している多摩センター地区連絡協議会でのアンケート実施も検討してはどうか。</p> <p>◇委員：これまでのアンケート等と被らないよう聴取したい対象に意図的に届くようにするのは良い。大学のゼミに直接依頼したり、パルテノン多摩を利用する学校に聞く等、対象を絞って聞く方が良いと思う。◎会長：既存調査の分析を進めつつ、属性でのクロス等から子どもにかかわる部分を意識的に抜き出していくことになるだろう。今日出された意見をもとに事務局で実施してほしい。</p>
次第3 アンケート案の協議	<p>●事務局：アンケート案について説明を行った。</p> <p>◎会長：事務局からの説明を受けて、問9以降は子育て世代に向けて確認する設問としているのが特徴だ。意見や何か質問等はあるか。</p> <p>○副会長：社会生活基本調査等では鑑賞行動と自ら実演したり、踊ったりする行動の2本立てで尋ねており、一般的には鑑賞行動の方が多くなる傾向にある。問10と11の子どもの実態把握においては鑑賞行動や習い事等の結果が見えるように、選択肢を意識的に分けた方が良いのではないか。鑑賞行動は子どもの参加行動のきっかけになり、スポット的なイベントと継続的に行う活動の両方が補完関係にあると思うので、どちらも把握できると良いと思う。また、若者だとコンサートに行くよりは、ブラスバンドで演奏することなど日常の中で習慣的に行うことの方が重要だと思うので、体験について工夫して聞けると良い。</p> <p>◎会長：重要な指摘だと思う。関連する指摘などあれば出してほしい。</p> <p>◇委員：問10について、子どもの生活実態から、学校の行事等においても鑑賞に限らず演じることもあり、地域のお祭り等の行事に参加しなくとも鑑賞のみすることはある。鑑賞や参加と限定すると実態を正しく把握できない可能性があるので、鑑賞と参加で分けて聞くのはどうか。</p> <p>◇委員：今回のアンケートでは内容が文化芸術を享受していくうえで必要なことを調査しているが、享受するだけでなく表現するところまで含めるのか。表現まで含めるのであれば、聞き方も変わるのでないか。</p> <p>◎会長：特に子どもや若者は鑑賞と参加には違いがあると思う。計画の重要度によって把握する内容が変わるとと思うので、項目を増やすことが難しい場合、事務局としてどう判断するのか。</p>

●事務局：設問は絞っているが、有識者会議で設問追加も予想していたため、1～2問程度増えることは問題ない。小さい子どもは体験が多く、若者は体験より表現の方が多いと推測されるため、鑑賞・体験・表現を区分して把握できるよう設問を工夫したい。

◎会長：問9以降については、多摩市独自の設問のため、もう1問程度は増やしても良いのではないか。市が子どもに力を入れていることが設問からも市民に伝わって良いと思う。問8までと問9以降で切り分けて議論を進めたい。問8まで何か質問等あるか。

◇委員：問2の性別は聞く必要があるのか。

○副会長：現実的には、男女で鑑賞行動に結果に差があるため、その対応策を図るのであれば把握しておけると良い。

◇複数委員：回答を必須にしないで、その他と空欄を設ける配慮が必要ではないか。

●事務局：必須入力としないこと、無回答を設けることで自由な回答を促すこととしたい。

◇委員：問6の選択肢「5. 地域の方や団体等との連携を深めること」の表現が抽象的で回答しにくいのではないか。多摩市が文化芸術を発展させるためには、若いアーティストの支援や担い手の育成も選択肢に入れると良いのではないか。

◎会長：前回も同様の指摘があった。「地域の方や団体等」というのは、地域で活動する市民や文化団体のことか、あるいはもっと広く一般的な住民等を指すのか。

●事務局：地域で活動する市民や地域で活動する文化団体や文化団体連合加盟団体等をイメージしていた。表現は検討したい。若いアーティストの支援も選択肢に含める方向で調整する。

◇委員：問4について、選択肢「12. 花展、盆栽展、茶会などの展示、イベント」に書道を入れた方が良いのではないか。美術の分類が曖昧だと思う。また、「9. 日本舞踊」が独立した分類になっているのは問題ないのか。歌舞伎の舞踊が独立してできたものが日本舞踊なので、「10. 伝統芸能」に含むものだと思った。

●事務局：国との比較を行うにあたり、選択肢はできるだけ揃えたい。集計時にまとめる方法もある。あくまで鑑賞行動に基づく設問のため、書道につ

いては、「3. 美術」の中に「書」として含んでいる。

◎会長：問8までは今出された意見を中心に修正をお願いしたい。続いて、問9以降について議論したい。何か質問等あるか。

◇委員：乳幼児期からとなると、親の意向が出やすいので、親としてどのようなイベントや行事に参加させたいかというニーズを聞いてはどうか。

◎会長：自由記述を設けるイメージか。子どもと親の間で考え方には差が出た場合も重要だと思う。

◇委員：可能であれば、保護者が子どもの頃に文化体験を行ったかを聞いた方が良いと思う。きっかけがなければ子どもに体験させたいと思わないのではないか。

◇委員：表現活動をさせている親もいるので、活動のきっかけ等、成功体験がわかると施策に落としやすいのではないか。

◎会長：実現は難しいかもしれないが、アンケート回答者の中からインタビュー等できると具体的なものが見えてくると思う。団体ヒアリング等に加えて、子育て中の親を対象にグループインタビューできると本音が聞けるのではないか。

◇委員：アンケートとインタビューは分けないと質問が増えてしまい、答えにくくなってしまう。入れたい項目を整理して、深掘りしたい内容はインタビューなど活用できると良い。

◇委員：既に文化芸術分野で活躍する子を持つ親に、活動のきっかけや経緯を共有できると、これから子育てをする方々にも重要な情報になると思う。アンケートの選択肢にある、「特にない・分からない」について、ニュアンスが異なるのではないか。

○副会長：子どもの年齢によって捉え方が異なると思う。小学生程度であれば親が把握できいていても、中高生になればどんな活動をしているのか細かく把握するのが難しく、中高生の子を持つ親にとって「分からない」が必要かもしれない。指摘の通り、「特にない・分からない」は分けると良いと思う。

◎会長：新たに設問を追加するとなると、どのような質問が良いか。

○副会長：鑑賞と体験は、いずれも参加であり大きな差はないが、スポットで体験するのか継続的に経験するのかは大きな差だと思うので、分けて聞く方が良い。

	<p>◇委員：設問を増やすと答えにくくなるので、選択肢に括弧書きで「鑑賞等・継続的に経験」という形で○をつけてもらう方法もあるのではないか。また、これから先どんなことを経験してもらいたいかについて問を増やしても良いのではないか。妨げになっていることより、どういうことなら参加したいかを聞いた方が良いのではないか。</p> <p>◇委員：今後の望むことについては問6と7で聞くのでクロス集計で把握できるのではないか。</p> <p>◇委員：問9について、子どもの年齢によって問10の答え方が変わるものではないか。</p> <p>○副会長：小さい子どもの状況を把握するのであれば、よくあるのは末子の状況で答えてもらう方法もある。</p> <p>◎会長：これ以上は意見がないので、出された意見を事務局で整理して一任する。</p>
次第4 計画骨子案の協議	<p>●事務局：計画骨子案について説明を行った。</p> <p>◎会長：事務局の説明を受けて、質問や意見等あるか。</p> <p>◇委員：アンケート結果次第だが、情報発信は重要で施策の1つの柱になるのではないか。経済的な支援は施策になり得るのか。</p> <p>◎会長：情報発信は重要なことで、計画の推進に向けて施策の共通事項として整理する見方もある。経済的な支援は基本施策よりは、施策を実現するための取組として位置付けていくことが多い。</p> <p>◇委員：経済的な支援があることを示していくのが良いと思う。若い世代にとって、バンド活動等の練習や発表する場、ライブの運営費用等、活動団体として登録して市から支援を受ける仕組みが構築できると良い。</p> <p>◎会長：それを実現するためのプラットフォームや中間支援組織について、施策の柱としてか、取り組みとして記述するかも検討されたい。今出された意見をもとに、それらを束ねていく方向性をフレームとして検討したい。施策の内容案について事務局から説明をお願いしたい。</p> <p>●事務局：施策の内容案について説明を行った。</p> <p>◇委員：スポーツ分野だと見る・する・支えるという視点で整理している。</p>

	<p>文化芸術でも同様に整理することができるのではないか。</p> <p>◇委員：わかりやすい視点だと思う。支援・交流・鑑賞といった大きなキーワードでまとめないと、文言によって解釈が変わることもあると思う。</p> <p>◇委員：見る・する・支えるという視点での整理はみんなの文化芸術振興にとって、とてもわかりやすいと思う。3本柱とするのは良いと思う。</p> <p>◎会長：ビジョンと基本目標を明確に分けない自治体もあるが、多摩市ではビジョンの中にそのような視点を取り入れている。施策についてはもう少し具体的に実現するための柱や目標とする具体的な状況等を検討しても良いかもしれません。最近では活用するという視点も出てきている。町おこしや教育、福祉に文化を活用していく視点もある。</p> <p>◇委員：文化芸術は敷居が高くなりがちで、経済的な障壁も含め、今回は誰一人取りこぼさないという視点も重要だと思うので、自分が対象だとわかる施策があると良い。情報発信もとても大切で、国交省で4月から不動産情報が一元化されたサイトが公開され、高く評価されている。多摩市でも文化芸術に関する全ての情報を見ることのできるサイトができると、他市にはない特徴になると思う。</p> <p>◇委員：情報がバラバラに発信されているので、集約されると良い。東京都では「東京データプラットフォーム」を構築し、色々な情報を一つの場所に集約する動きがある。</p> <p>○副会長：施策3の文化芸術団体等の交流の促進について、交流は手段であり、交流した先の何か目標を達成するような位置付けではないか。交流する団体が増えることが目標ではなく、情報発信が効果的に広がっていくとか、創造環境が豊かになることなどを柱に、その実現策の一つとして交流を促進させる方がわかりやすいのではないか。文章の表現や施策の目指すことを整理した方が良い。</p> <p>◇委員：文化芸術を活用していくことも見据えて、海外に向けた発信も必要ではないか。古民家で日本の文化を体験する環境やそれに関する情報があると子どもたちの日常環境も変えていくのではないか。</p> <p>◎会長：情報発信にもレベルがあるので、柱にする整理の仕方もあれば取組レベルでのまとめ方もある。域外だけでなく、域内への情報発信も肝要。多摩市は人気テーマパークがあるので、インバウンドも含めた来街者が多い。移住促進にもつながる。最近ではインクルージョンの考え方も増えてきており、誰一人取りこぼさないことを柱にする自治体もある。子どもを一つの柱にするのは多摩市らしさがあって良い。他の施策は他自治体でも見る内容な</p>
--	---

	<p>ので、もう少し個性を出したり新しい施策を検討するのも良い。</p> <p>◇委員：子ども若者に特化するなら、文化芸術に触れた人たちが次に作り手になりたいときに支援できる施策があると良い。</p> <p>◇委員：施策1は「文化芸術を支える環境の充実」の「支える」を「発表する」にしてはどうか。施策4に団体の交流を入れて施策3と合体させ、施策の柱を3本にしてはどうか。「多彩な文化芸術に出会え人々との交流があり活かせる機会を創出する」としてはどうか。</p> <p>◇委員：施策3本に対して情報発信は横串的な位置付けになると思う。</p> <p>◇委員：多摩市にアーティストが生まれても、市内で活動を続けるには発表の場があることが大事だと思う。多摩に来たら何かしらの活動ができるということが大事だと思う。</p> <p>◎会長：「支える」という言葉の中に「発表」が含まれている。発表する活動を支えていくという意味であれば、発表というよりは表現する方が相応しいのではないか。</p> <p>◇委員：昔の教育を受けた世代では、発表するのが苦手な世代が多い。ある程度慣れていないと委縮してしまう。小さい時から発表することを経験していると自己肯定感につながり、共感能力にもなる。「文化芸術を表現できる環境の充実」とすると、多摩市ならではの表現を喜びあう文化になる。表現するという言葉の方が、広がりがあって何をするか伝わりやすいと思う。どの世代でも表現できる環境があると良い。</p> <p>◇委員：支える内容は多岐に渡る。支えるとはいって、支援できることは限りがあり、自走してもらうことが目標になると思うので、具体的な行動につながる内容を明記できると良い。</p> <p>◎会長：「文化的コモンズ」という言葉があり、文化に関わる様々な団体や表現者、担い手、享受する人たちをつないでいくことで、文化を共有の財産にしていく仕組みが重要だと言われており、条例やビジョン検討時にも話題にしたことがあったが、最近は意識が弱まりつつあるので、そういった視点も頭の片隅に置いて、次回続きを検討できると良い。情報発信の横串の視点も含め、本日様々な意見が出た。事務局にまとめてもらって、また次回以降検討していきたい。</p>
次第5 既存事業、文化資源 に関する調査状況の 報告	<p>●事務局：既存事業、文化資源に関する調査状況について報告を行い、確認された。</p> <p>◎会長：市の事業や公共施設だけでなく、民間の活動も盛んで色々行われて</p>

	<p>おり、民間施設も多くあるので、うまくつないで相乗効果があると良い。</p> <p>◇委員：TIC の事業一覧が出ているのであれば、文化団体連合の事業も掲載してはどうか。</p> <p>●事務局：TIC の事業は前回の会議で外国人向けの事業に関する質問が出されたため、今回の会議で提示することになった。文化団体連合の事業は次回の会議で提示する。</p> <p>◇委員：市内の学校で文化芸術体験があるなら、事業一覧に載せてはどうか。</p> <p>◎会長：部活動の地域移行に関する動きについても記述を検討されたい。。他の所管課が担当にはなると思うが、障がい者の文化芸術に関する事業等もあれば、計画の中に位置付けていくこともあるのではないか。市で把握する事業だけでなく、委員の皆さんの方が詳しい事業もあると思うので、あれば提供していただきたい。</p> <p>◇委員：今も事業に関する情報がばらばらになっているので、一つの場所で集約されていくと良い。そのような情報を活用できれば、いろいろな企業や分野との相乗効果が生まれる。広報活動やデータの一元化について、お手伝いしていきたい。</p>
次第 6 その他	<p>◎会長：次回以降アンケートの速報結果も含めて、引き続き施策を検討していく。</p> <p>●事務局：第 3 回の有識者会議は 6 月中～下旬を予定している。開催日程は追って連絡する。</p>